


2023 ~ 2024 年度国際ロータリーのテーマ

世界に希望を生み出そう

●会長 中島 祐爾
●幹事 緒方 公一

 No.1837 令和 05 年 10 月 25 日 第 14 回例会

※例会日 毎週水曜日 12:30~

※例会場 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内

※事務所 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内 TEL 354-4521 FAX 354-4053

※ URL <https://www.serc2720.org> ※ email serc@serc2720.org



■点鐘

■国歌斉唱「君が代」

■ロータリーソング「我等の生業」 (ソングリーダー 宮川義行)

■来訪者紹介 (会長 中島祐爾)

認定特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本・熊本

理事長 潮谷義子 様
事務長 末廣正男 様

■会長の時間 (会長 中島祐爾)

クラブ

「クラブ」とは、同じ目的を持った人の集まりのことです。例えば今ラグビーワールドカップをやっていますが、ラグビー好きの人が集まり、技術向上を目指すのがラグビークラブです。また最近将棋で八冠を採られた藤井聡汰さんの影響で、将棋ブームも起こり子供たちはじめ将棋好きが集まり、技術向上と親睦を期待して将棋クラブへ入会する人も多いと聞きます。

ちなみに、夜、繁華街でお酒や女性の好きな人が集まって楽しい時間を過ごすのがナイトクラブ。いわゆる夜のクラブ活動です。これも夜の街を賑わせることも大切なことです。

一方、ロータリークラブは「ロータリーの目的」の推進・達成を目指す人たちの集まりだと思っています。でも最初からロータリーが好きな人たちが集まってできたクラブではありません。実際「入会前からロータリーが好きだった」というひとはいないでしょう。もちろん入会理由の一つとして、多少知識がありロータリーのステータスに魅力を感じて入会したというひとはいると思います。いずれにしても、多くのロータリアンは人柄や仕事ぶり、世間の評判などを見込まれ、日ごろの人間関係なども絡み入会したというのが実情ではないでしょうか。入会経緯はどうであれロータリークラブの素晴らしさ・魅力は入会して例会や色々な事業に参加していくうちにわかるようになったという人が多いでしょう。

そもそもロータリーは

①ロータリアン同士の親睦を基盤に



②立派なロータリアンを育てながら

③価値ある奉仕を通じて、社会に貢献する世界的な団体である。こうした「ロータリーの真髄」をクラブの中で学び、仲間と共鳴し、切磋琢磨し合いながら奉仕を実践していく「入りて学び出て奉仕せよ」という言葉があります。

そこに喜びと誇りを感じるようになれば立派なロータリアンだと思います。

先週例会後に永野長期戦略委員長の呼びかけで委員会が開催されました。その中でもただ例会場にきて食事して一時間例会と卓話で帰ってしまう。なんとなくロータリー歴だけ長くなっていくのではなく、何かクラブで目標を立て2年3年計画でそれに向かってやりましょう。また奉仕活動にしても新型コロナの影響で今年も伝承遊びが中止になりました。今後今までの年間行事として計画していたことも再検討する時期ではないかと思っています。

せっかく現在44名熊本東南ロータリークラブの会員として集まっています、これからのクラブ戦略計画を作って行きましょう。まずはうちのクラブの歴史、今までどのような奉仕活動をしてきたかを知る必要があります。クラブフォーラムで話し合をしましょう。

チャーターメンバー、長期戦略委員会メンバーの方にお問い合わせしたいと思います。

歴史を知り今後の計画、目標をたてそこに向かって行きましょう。そして魅力あるクラブにしましょう。クラブフォーラムは討論会です。

■幹事報告 (幹事 緒方公一)



■今後の地区行事

10月28日(土)	九州4地区合同公共イメージ向上イベント「ポリオ根絶チャリティーバザー」	大分県日田市	大分駅前、他
	前田日出夫、彌富照皇		
11月13日(月)	世界ポリオデー × 子どもたちにクラシック音楽を	熊本県熊本市	熊本市民会館シアーズホーム夢ホール
	彌富照皇、松本繁、小畑成司		
11月25日(土・日)	第39回ローターアクト年次大会	熊本県熊本市	熊本B.9、コンフィホテル
	杉本整哉、彌富照皇、宮川義行		

■ロータリー情報の時間

(ロータリー情報担当委員 白木誠一)

10月は奉仕月間のテーマとして「地域社会の経済発展月間と米山月間」になっています。ロータリーの誕生とその成長ロータリーの友10月号の抜粋です。

それから、ロータリーの考え方に共鳴されて、国連で仕事をされていた緒方貞子さんの話を少ししたいと思います。



20世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道徳の欠如が目につくようになっていました。ちょうどそのころ、ここに事務所を構えていた青年弁護士ポール・ハリスはこの風潮に堪えかね、友人3人と語らって、お互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたい、という趣旨でロータリークラブという会合を考えました。ロータリーとは集会を各自の事務所持ち回りで順番に開くことから名付けられたものです。こうして1905年2月23日にシカゴロータリークラブが誕生しました。

それから、志を同じくするロータリークラブが、つぎつぎ各地に生まれて、国境を越え、今では200以上の国と地域に広がり、クラブ数36,926、会員総数1,172,284人(2023年8月14日国際ロータリー公式発表)に達しています。このように、歴史的に見ても、ロータリーとは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりなのです。その組織が地球の隅々にまで拡大するにつれて、ロータリーは世界に眼を開いて、幅広い奉仕活動を求められるようになり、現在は多方面にわたって多大の貢献をしています。なお、世界中のロータリークラブとローターアクトクラブの連合体を国際ロータリーと称します。UNHCR元国連難民高等弁務官の緒方貞子氏が1951年、24歳の時に日本人として2人目のロータリー国際親善奨学生となりました。UNHCR元国連難民高等弁務官の緒方貞子氏が、2016-17年度ロータリー学友世界奉仕の受賞者に選ばれました。

「ロータリー奨学生として留学中、社会奉仕の重要性を学んだだけでなく、ロータリアンの方々と交流を通じて、見識を広げ、さまざまな経験ができた」と緒方氏は振り返ります。「『超我の奉仕』というロータリーのモットーに深い感銘を受け、以来、これが私の人生の指針となってきました」と言う事で判ると思いますが、緒方貞子さんは世界の貧困の中にいる子供達を救うためにあることをしました。世界の大きな投資グループでウオーレン・バフェットとかジョージ・ソロス投資グループの名前を聞きますが、緒方氏はその弁務官の立場を使って世界の投資グループの代表に対してあることを頼みました。

それは世界に何千社と下請けがあるような大企業の製造業などに、末端まで仕入責任を持たせる依頼です。つまり末端の仕事に子供などを使わせない事の依頼です。

東南アジアなどでは子供を働かせて経費を下げるなどが広くおこなわれていました。

要するに末端までの仕入先のことを大企業自体が把握して責任を持つこと、その事を理解しない大企業は投資グループの投資からは外してほしいとの依頼をされたのです。

例えば、実際に花王石鹸の代表がイギリスの投資会社に呼ばれ、世界の仕入さきの末端まで責任を持つように依頼されています。

それが理解されないと、花王の会社の株が揺さぶられるという事です。

そのことはまずヨーロッパからはじまり、ヨーロッパの株式市場に30%位広がり2015年位から日本にも広がりはじめました。

ANAもその先駆けです。ANAの機内食は世界中で調達されますが、気が付かれた方もおられると思いますが、ANAの機内食には説明文がついています。食材ごとに何処の国のどの会社で仕入れたか解説かかっていると思います。

ロータリーの奉仕は、人びとの人生、そして地域社会を変えるものです。真に変化を生み出す奉仕をもっと実現するために、私たちは、ロータリーでの自分の役割、そして世界におけるロータリーの役割を、これまでとは違う角度でとらえる必要があります。

■委員会報告

(社会奉仕担当委員 宮川 義行)

本日の卓話者 潮谷義子様についての紹介



■出席報告

(出席・プログラム担当 小竹 誠)

月日	会員数	出席者数	MU	修正出席者数	出席率(%)
10月11日	44 (免3) 41	33	1	34	82.93
10月25日	44 (免3) 41	29 Zoom1			70.73

☆出席免除

10月11日

住江正治 島村徹男 志賀重人

10月25日

住江正治 島村徹男 志賀重人



☆欠席者

10月11日(7名)

出先教明、井村宜敏、川崎直樹、小野川善久、徳永貴子、山本浩之、矢野敬之

■スマイル報告

(親睦・スマイル担当委員 武末 直大)



◎宮川義行 4,000円
潮谷義子様、末廣正男

様、本日はご来訪ありがとうございます。今から23年前、潮谷さんのお宅の屋根の塗装をしながら下を眺めていると、毎日毎日女性が次々集まってきます。お母さんに尋ねると「選挙の準備みたい」と言われました。しばらくすると潮谷知事の誕生でした。驚きました。熊本地震の年からビジネスグループのイベントやフォーラムに参加して頂き若い経営者の相談にもものって頂きました。今年の1月、済生会に入院した日に相談事で潮谷さんにTELしたところ「今空港なの。東京の会議に行ってきます。3月なら時間とれますよ。」と言われ「済生会に入院してるの？私、今、済生会の会長なの、何かあったら連絡下さい。」と言ってくれました。脳のバイパス手術が成功して、こうしておられるのも済生会の先生のおかげです。



◎内田信行 3,000円

潮谷義子様の卓話楽しみにしています。先日の会長幹事の慰労会で直前会長 山田会員、直前幹事 杉

本会員、パスト会長 島村会員より、御樽を頂きました。一次会で13,000円残りましたので40周年記念事業の箱に入れさせて頂きました。

29日のBBQに毎回沢山の差し入れ持って来て頂きますが、飲み物も食べ物もありますので、今回は手ぶらでの参加宜しくお願いします。



◎中島祐爾 2,000円
潮谷様、本日は大変お忙しい中ありがとうございます。卓話よろしくお祈りします。



◎松本繁 2,000円
敬愛する潮谷義子様卓話に感謝してスマイル致します。

■卓話

認定特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本・熊本 活動報告

理事長 潮谷義子 様
事務長 末廣正男 様



ごあいさつ

**誰もが互いに尊重し合い
ともに生きていく社会を**

理事長 潮谷 義子

国連は「誰ひとり取り残さない地域社会」と、その趣旨をSDGsに定めています。平等なアレーズ、メッセージや理念ではありません。誰もが生き生きと暮らしていける地域社会の実現、その達成で一人ひとりが行動することを求めているのです。

スペシャルオリンピックス日本・熊本は30年前からスポーツ活動を通して、障がい者とともに生きる地域社会を築いてまいりました。

アスリートは頑張る力、耐える力、そしてルールを守る力を身につけます。ボランティアはアスリートから優しく感動をもらい、多くのことを学びます。心と心を響きあわせて、ともに成長するのです。

その先にあるのは、誰もが互いに尊重し合ってともに生きていく社会です。それは、知的障がいのある人だけでなく、さまざまな障がいのある人、そして高齢者や認知症の人、すべての人が尊敬と出会いを持って暮らす社会です。

皆さまとご一緒にご活動を広げていくことが私たちの願いです。ご支援ご協力をお願い申し上げます。

頂いた寄付金はこんなことに使われます

- (1) スペシャルオリンピックスで一人ひとりの日常生活の充実などの支援活動に
- (2) 日本アスリート育成委員会の発祥である地区大会の運営費に
- (3) 2年に1回、交互に行われる夏季・冬季ナショナルゲーム(全国大会)の選手旅費運賃等に
- (4) 2年に1回、交互に行われる夏季・冬季ワールドゲーム(世界大会)の選手旅費運賃等に
- (5) アスリート、コーチ、ボランティアの研修会開催の費用に
- (6) スペシャルオリンピックスのことを広く知ってもらうための広報費に

【2023年度の計画(案)】

- ① アジア世界大会への派遣アスリートに対する応援
- ② 熊本出身アスリートとの交流事業の実施
- ③ 日本アスリートに使用するスポーツ用品の整備・充実 等への使用を予定しています。

その他、スペシャルオリンピックス日本・熊本の活動を継続するために使われます。

頂いた御支援は広く紹介させていただきます

SON・熊本に対して頂く御支援は、当法人の広報誌らぼーる(年4回、各1,300部発行)及び法人ホームページ等にてご紹介させていただきます。広報誌らぼーるは、関係団体等へも贈呈させていただきます。社会福祉への貢献として広く広報させていただきます。

【お問い合わせ】
〒960-0017 熊本県中津区千歳町1-30 熊本アスリートセンター 501号室(熊本県 熊本県庁 2階) 2023年7月1日発行(発行所)096-247-7144 FAX 096-247-7144

● **スペシャルオリンピックス日本・熊本からのお願い** ●

SON・熊本 30周年記念事業
Be with all
"みんなが輝き だれひとり取り残さない共生社会を目指して"

スペシャルオリンピックス日本・熊本とは、知的障がいのある人達(アスリート)に、日常的なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技大会を年間を通じて提供し、社会参加を応援している国際的なスポーツ組織です。日本のSD活動は、1991年の世界大会に熊本の10歳の女性アスリートと一人のボランティアコーチが参加し、銀メダルを獲得した事から始まり、2002年に行われました。

そして、スペシャルオリンピックス日本・熊本(SON・熊本)は、1993年3月に現在の名称である中村勝子さんから創設メンバーによるボランティア団体として設立され、多くの方々のご支援やボランティアの皆さまのご参加に支えられ、本年「設立30周年」の節目を迎える事になります。

その間、2003年以降は約10万人を3万人、2015年に20万人から認定法人の資格をいれたことで、活動の場を広げるとともに争奪大会ですが、3年前からの新型コロナウイルスの影響により、思うような活動が実施できず、会員や有志の減少にも繋がってまいりました。

そこで、関係者の皆さまに、30周年記念SON・熊本支援の為に(1)SON・熊本の会員又は賛助会員へのご参加、(2)SD・熊本への関係者のご寄付、(3)委員会自費活動の設置によるご支援へのご協力を呼び掛けています。

SON・熊本のアスリート達は4年に1度開催される夏季・冬季の全国大会と世界大会に向け日々練習に励んでいます。貴方も世界に輝くアスリート・熊本のアスリートを応援して頂けませんか? 皆さまのご支援ご協力を、是非ともお願い致します。

《応援方法》

(1)SON・熊本会員、賛助会員への参加
SON・熊本では、会の規約に基づいて賛助いただいた方々を対象に、会員(又は賛助会員)への参加を募集しています。年会費は会員が500円、賛助会員が1000円です。会員には組合での発言権が与えられるほか、賛助会員を会の会員に追加する権利も付与されます。詳しくはSDコードからホームページをご覧ください。

(2)SON・熊本への関係者のご寄付
右のQRコードから寄付専用のホームページにアクセスいただき、クレジットカード決済又は銀行振込いただけますようお願いいたします。
なお、ご寄付いただいた方には、寄付金受領証明書を発行致しますので、確定申告の際の寄付控除等に活用下さい。

特に、認定特定非営利活動法人であるSON・熊本へのご寄付は、一般のご寄付よりも有利な所得控除の特典(税制優遇)が認められます。詳しくは、ご利用の税理士又は会計士にお問い合わせ下さい。

(3)委員会自費活動の設置によるご支援
SON・熊本とココ・コーポレーション(株)では、SD支援の為に特別なトレーニングの委員会を創設し(右の写真)の設置者を、広く募集しています。これは、事業所の敷地や人通りが多い公園等に近しい民地(ココ・コーポレーションの自費活動)を設置し、その場り上げの一部を賛助者の方からSON・熊本への支援金として提供いただくものです。設置に当たっては、三者により協定書を作成させていただきますので、設置可能な場所があればSON・熊本事務局までお気軽にお申し付け下さい。

QRコード: 1547-03 1993年9月18日設立 第二種郵便物承認 通番4095号 2023年 3月24日発行 (毎月1,2,4,5,6,7がつく日)

らぼーる OSK NEWS LETTER
2023年7月 臨時号
認定特定非営利活動法人
スペシャルオリンピックス日本・熊本

未来へ、共に輝く、躍動するアスリートたち
SON・熊本設立30周年記念式典開催 2023/5/28 熊本城ホールメイン会場

**記念シンポジウム Be with all だれもが
笑顔で暮らせる社会をめざして**

パラスポーツメダリスト 高田 宇真氏
熊本バスケットボール(株) 代表取締役 福岡 拓哉氏

コーディネーター: 潮谷 義子氏
パラスポーツ 久保下 真氏
(熊本保健科学大学准教授)
森田 善哉氏 (アスリートコーチ)
高田 宇真氏 (スペインからオンラインで参加)
中野 拓真氏 (SD日本事務局)
福岡 拓哉氏 (オンラインで参加)

世界大会壮行会

6月からベルリンで開催された夏季世界大会に参加する熊本選手団の壮行会が行われました。アスリート2人の力強い決意表明がありました。アスリート会の会長江崎さんから応援メッセージが2人に手渡されました。

日本選手団「女から
平岡部長、特別SDの寺倉先生
特別主任(ユニファイドサッカー)
高田彩(ユニファイドボウリング)
西村冬美(ボウリングパートナー)
吉田由美子(コーチ)

可憐い子どもたちのエスコート

号外

ベルリン大会応援団からの速報では、野田幸任さんのサッカーチームが金メダル、吉田彩さんがボウリング女子シングルスで銅メダル、ユニファイドダブルスで西村冬美さんと4位入賞との喜報が届いています。素晴らしい成績で、感動です!

SO 日本・熊本からのお祝い

熊本県SDG+登録制度 登録事業者の皆さまへ

突然のお便りにて失礼いたします。

今、国連が示す持続可能な開発目標 (SDGs)「誰ひとり取り残さない社会をめざして」の取り組みが世界の潮流となっています。そのような中、スペシャルオリンピックス (SO) 国際本部が掲げる活動の理念「スポーツ、健康促進、学校教育、若少年、地域社会の人々との関わりといった様々な機会を通じて、知的障がいのあるに関わらず人の差別をなくし、すべての人が参加できる社会(インクルージョン)を築き出すこと」は、先取りした社会を変える動きとして世界中に広がっています。

私もスペシャルオリンピックス (SO) 日本・熊本は、知的障がいのある人達 (アスリート) に、日常的なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じて提供し、社会参加を促している日本で初めて設立した認定 NPO 法人です。30周年を迎えた本年、おる5月28日に記念式典やシンポジウム等を熊本城ホールで開催し、700名以上の参加者が、SDGsの目的である「誰ひとり取り残さない地域社会」の実現に向けた共感と感動の輪に包まれました (前ページ参照)。これを機に、アスリートのスポーツ活動を充実させ、共生社会をめざす第一歩となるよう、より多くの皆さまに是非ともご支援・ご協力をお願いしたく、お便りさせて頂いた次第です。

どうか、新聞「スペシャルオリンピックス日本・熊本からのお祝い」の内容をご精読の上、ご支援を賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

なお、ご協力・ご支援いただいた皆様のご紹介を、広報誌「らびーる」(年6回、各1300部発行)、HPで掲載させていただきます。

なお、SON・熊本の活動につきましては、熊本日日新聞6月16日付け朝刊の社説「共生社会実現に近づこう SO30周年」(3ページ)及び5月20日付け朝刊「くらし」面(4ページ)の記事の中で、詳しく紹介されています。ご参照いただければ幸いです。

〈追伸〉スペシャルオリンピックス(SO)の活動にご関心をお持ちいただけましたなら、下記の SON・熊本事務局までご連絡下さい。御社との連携方法等について、ご説明・ご相談させていただきます。

(SON・熊本事務局) 認定特定非営利活動法人 スペシャルオリンピックス日本・熊本 〒960-0001 熊本市中区区子壱坊町5-50 熊本メディアビル4F Tel:096-286-2781 Fax:096-286-2782 E-mail: kamama@son.or.jp	QSKNWS LETTER らびーる 発 行 : 九州障害者定期刊行物協会 〒812-0068 福岡市東区社領1丁目12番4号 編 集 : スペシャルオリンピックス日本・熊本 編 集 日 : 2023年6月16日 編集スタッフ : SON・熊本 広報委員会(らびーる担当) 定 額 : 100円(代金は会費に含まれています)
---	---

■点鐘

編集 松尾 浩

奉仕志向の仲間が集まるクラブ

投稿日: 10月16, 2023 投稿者: Rotary Japan
 寄稿者: アレックス・ジョンソン

(プレーノー・ウェスト・ロータリークラブ
 [米国テキサス州]、ロータリーコーディネーター[第25B・29ゾーン])



地元小学校で低所得家庭のための食料配布活動をする学校職員のボランティア、ピューさんとロータリー会員のピーメンダーファーさん、トーマスさん。

2020年、プレーノー・ウェスト・ロータリークラブの会長に就任した私は、難しい課題に直面していました。過去10年間にクラブの会員数は減り続け、わずか21名になっていたのです。さらに、新型コロナウイルス流行で世間はロックダウンとなり、それまで立てていた計画や方策が無用になってしまいました。それでも私には、転換を図るためのビジョンがありました。

会員を増やす最善の方法は、奉仕に焦点を当てることだと感じてい

ました。そこで私は、ロータリーの行動計画を指針とし、充実感を与える奉仕活動に会員が参加できるようにすることで起死回生を図ることにしました。各月に小規模ながら意義ある奉仕活動を複数回実施してより大きなインパクトをもたらし、人びとに声かけて参加を促すことで参加者の基盤を広げました。また、この取り組みを通じて適応力を高めました。

こうして、1年で81回ものプロジェクトを実施し、毎月4名の新会員が入会しました。参加者の積極的なかわりを促して、ボランティア参加者たちがロータリーの仲間となり、地域社会での活動にかかわり続けられるようにしました。

新しいクラブのモデル

こうした取り組みに加え、奉仕中心の新しいクラブを立ち上げました。この新クラブは、毎週の例会出席と高額な会費納入という義務はなく、人びとが地域社会での奉仕活動に参加できるようにすることが目的です。私たちのクラブの中にもこの新しいモデルに魅力を感じた人がいたため、この新クラブは、別個のクラブではあるものの、その会員基盤は私たちのクラブの延長であるという、衛星クラブに似たモデルを採用しました(編集者注: このクラブは衛星クラブとは異なり、いずれ独立したクラブになることを目的としていません)。

これにより、驚くほどの変化がありました。最初の1年間でクラブの会員数が3倍の63名となっただけでなく、会員の過半数が女性となり、人種という点でも多様性が高まりました。平均年齢も17歳低くなりました。



奉仕中心のクラブを立ち上げたことにより、クラブの会員数が1年間で3倍となりました。

このモデルの成功をほかの地域でも再現するため、20名から成るボランティアのチームが23地区(カナダ・米国各地)を援助し、同じような奉仕中心のクラブがさらに結成されました。その成功要因は、(1) 設立に必要な人数が少ないこと、(2) 既にロータリーを知っている人たちが会員となること、(3) スポンサークラブ(親クラブ)の支援の下で迅速に成長できることがあります。このようなクラブは、地元のニーズに基づいてみんなで意義ある奉仕プロジェクトに取り組み、スキルと才能を生かして地域社会に変化をもたらすことのできる素晴らしい機会となります。

また、Eメールとソーシャルメディアでクラブのメッセージを人びとに伝え、奉仕活動への参加を呼びかけました。これにより、入会候補者は、例会に出席する前にクラブの活動を体験し、入会後すぐに奉仕活動に参加することができます。人びとの関心をとらえ、コミュニティへの帰属意識を培うには、このような積極的な参加が極めて重要です。また、地元の企業・店舗に推進用資料を配布したり、口コミを通じて情報を広げたりしました。

奉仕活動に参加し、地域社会に貢献したいと考えている人は多くいますが、そのような人たちの関心を引くには、力強いメッセージと明確な目的意識が不可欠です。衛星クラブに似たモデルであれ、単独のクラブであれ、奉仕中心のクラブを通じてそれが可能になります。このようなクラブは、人びとが集まって共に行動し、インパクトを生み出す場所となります。

ロータリーボイスより